

参考

がんちゃん国際フォーラムの実績

がんちゃん国際フォーラム開催趣旨

本講演会は、国際舞台の一線で活躍する有識者の講演を通じ、本学学生がグローバル化のなかでの地域のあり方を考え、実践する(いわゆる「Think globally, act locally」)きっかけとして、国際的なセンスを磨くことを助けることをもって、本学の目指す持続可能な社会づくりの担い手となる国際理解力のある人材育成に資することを目的としている。

なお、フォーラム名称に岩手大学のイメージキャラクター「がんちゃん」を冠することにより、学生に親しみを感じてもらうことを狙った。さらに、がんちゃんの角のように国際理解に対する知的好奇心のアンテナを高くかかげ、国際的に通用する情報受信力・発信力を養ってもらいたいという願いを込めている。

がんちゃん国際フォーラムの実績 (2007 年度～)

年度	講師	講演テーマ	講演概要
2007 年度	上野景文 駐バチカン特命全権 大使	グローバル化のなかの 国際理解「欧州から日 本を考える」	大きな小国バチカン。10億のカソ リック教徒のネットワークを活用 し、対アフリカ支援など独特の外 交を展開。
2008 年度	池田勝也 前駐タンザニア特命 全権大使	グローバル化のなかの 国際理解「アフリカと 日本——タンザニア駐 在で見たアフリカ」	アフリカの貧困の現状及び日本の 対アフリカ支援について紹介。資 源開発の観点から対アフリカ外交 の重要性増す。
2009 年度	井上正幸 前駐バングラデシュ 特命全権大使	グローバル化のなかの 国際理解「数字から考 えるグローバル化の中 の国際理解—バングラ デシュを事例として」	バングラデシュは、インドに囲ま れた気候変動の最前線にある親日 国。元留学生の逸話を通じ、岩手 との連携の可能性について語る。
2010 年度	坂場三男 外務省特命全権大使 (イラク復興支援等 調整担当兼気候変動 枠組条約第16回締結 国会議(COP16)担 当)・前駐ベトナム特 命全権大使	グローバル化のなかの 国際理解「明暗を分け る日越関係と気候変動 問題」	現役のベテラン外交官が率直に語 る外交の現場での出来事。「二国間 関係とマルチ外交」という相異な る側面から日本の国益が何である かを考える。

2011 年度	楠田弘子 ルイジアナ州弁護士・ロヨラ大学助教授	「アメリカニューオーリンズからみた東日本大震災と復興支援」	2005年ハリケーン・カトリーナによる大洪水に襲われたニューオーリンズ。ニューオーリンズ復興の経験が示唆するものとは何か。(ニューオーリンズ日本人会等の NOLA JAPAN QUAKE FUND の活動で来日)
	堀江正彦 特命全権大使(地球環境問題担当)(現職)・前駐マレーシア特命全権大使 ※2011年度 EMS 公開セミナーとの共催	グローバル化のなかの国際理解「多文化国家マレーシア そして気候変動問題(COP17)」	現役外交官が語る日本外交の最前線。多文化国家マレーシアが示唆する日本の国際化のあり方と日馬関係の未来。日本マレーシア国際工科院に奔走した大使の誠実外交。そして、地球環境問題担当大使として臨む南アフリカでの COP について直前レポート。
	Sigurdur M. Gardarsson アイスランド大学社会環境工学部長・教授	アイスランドの環境と防災	火山と温泉、海と水産物など、似ているところのあるアイスランドと岩手。火山国ならではの防災や、環境を生かした地熱発電などエネルギー政策について学ぼう。
2012 年度	中村かおり 厚生労働省大臣官房国際課総括課長補佐	グローバル化のなかの国際理解「グローバルに女性が『働く』ことをめぐって—— 米国で出会った日本人、外国人」	アメリカ大統領選挙の今年、知っているようで知らないアメリカ社会について学びましょう！第一線で活躍する女性行政官が、在アメリカ日本大使館での経験や、厚生労働省での仕事の魅力と国内外のキャリア形成機会について語ります。

内容(キーワード): グローバル化のなかの国際理解、持続可能な国際社会づくりのなかでの日本のありかた、各国事情等。※岩手大学の学生に対する提言を含む。

なお、2010年度において、在バングラデシュ日本国大使館大村浩志一等書記官とのトークセッションを開催した(バングラデシュ留学生を含む学生、教員、市民が参加)。

(早川智津子 国際交流センター)